

平成29年度 硬式テニス部

～仲間の1勝はみんなの1勝～



高校選手権 男子団体 3位
新人戦 男子団体 4位

高校総体 女子団体 7位
高校選手権 女子団体 8位
新人戦 女子団体 7位

【部員】

男子

- <3年生> 武市 颯、森 大輔（小俣）谷川原徹志（文岡）谷水竜都（安乗）榎本和晃（松阪西）
関 康佑（倉田山）松田寛大、見置峻也（玉城）
- <2年生> 森下柊治（安乗）尾間孝輝（文岡）奥田裕登、作野成紀（倉田山）玉山智貴（厚生）
福田竜児（五十鈴）中村太一、中村二千翔（北浜）
- <1年生> 東山雅幸（文岡）藤田和志（多気）奥野 蓮、山口 陽、青山航大（港）

女子

- <3年生> 石井琴音、大黒双葉（文岡）喜田陽月、福井悠（大王）竹内優来、土屋鈴歩（北浜）
中西夢佳（玉城）山口真由（倉田山）上村綾菜（五十鈴）
- <2年生> 濱口 京佳（鳥羽東）西岡 玲奈（御園）
- <1年生> 山本栞菜（安乗）塩田菜々美（東海）島津萌乃香、谷川原奏美（文岡）高尾桃音（飯南）
森 愛夕香（小俣）上谷和可、中村あかね、山口璃々、森脇瑞貴（北浜）

【活動実績】

男子

○ 高校総体

男子団体戦 バスト32 （シングルス2本、ダブルス1本での対戦）

1回戦 対 松阪工業高校 2－1 勝利

2回戦 対 桑名西高校 1－2 敗退

男子シングルス

ベスト64 谷川原徹志 武市颯

男子ダブルス

ベスト32 谷川原・見置組 武市・松田組

○ 高校選手権

男子団体戦

3位

(シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

1回戦	対	菰野高校	3－0勝利
2回戦	対	久居高校	3－0勝利
3回戦	対	四日市商業高校	2－0勝利
4回戦	対	桑名西高校	2－1勝利
準決勝	対	四日市工業高校	0－2敗退
3位決定戦	対	海星高校	2－1勝利

男子シングルス(3年生の部)

ベスト16 谷水竜都、谷川原徹志、見置峻也

男子シングルス(1, 2年生の部)

ベスト64 中村太一

○ 新人戦

男子団体戦

4位

(シングルス3本、ダブルス2本での対戦)

2回戦	対	飯南高校	3－0勝利
3回戦	対	暁高校	3－0勝利
4回戦	対	津高校	3－0勝利(残り2試合は対戦途中)
準決勝	対	四日市高校	0－3敗退(残り2試合は対戦途中)
3位決定戦	対	鈴鹿高校	0－3敗退(残り2試合は対戦途中)

女子

○ 高校総体

女子団体戦

7位入賞

(シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

2回戦	対	相可高校	3－0勝利
3回戦	対	名張高校	2－1勝利
4回戦	対	四日市商業高校	0－3敗退
5～8位決定戦	対	川越高校	1－2敗退
7, 8位決定戦	対	鈴鹿高校	2－1勝利

女子シングルス

ベスト32 石井琴音、竹内優来

ベスト64 福井悠、大黒双葉、土屋鈴歩、上村綾菜

女子ダブルス

ベスト16 石井・福井組

ベスト32 喜田・西岡組、上村・土屋組、竹内・大黒組

○ 高校選手権

女子団体戦

8位入賞

(シングルス2本、ダブルス1本での対戦)

2回戦	対	伊勢高校	3－0勝利
3回戦	対	津高校	2－0勝利
4回戦	対	津商業高校	0－2敗退
5～8位決定戦	対	名張桔梗丘高校	1－2敗退
7, 8位決定戦	対	鈴鹿高校	1－2敗退

女子シングルス（1，2年生の部）

ベスト64 島津萌乃香、塩田菜々美、濱口京佳

女子シングルス（3年生の部）

8位 土屋鈴歩

○ 新人戦

女子団体戦 7位入賞 （シングルス3本、ダブルス2本での対戦）

2回戦 対 桑名北高校 3－0勝利

3回戦 対 名張青峰高校 3－1勝利

4回戦 対 津商業高校 0－3敗退

5～8位決定戦 対 川越高校 0－3敗退

7，8位決定戦 台風接近のため中止

女子シングルス

ベスト32 西岡玲奈

ベスト64 島津萌乃香、濱口京佳、山本葉菜、山口璃々

女子ダブルス

ベスト16 山口・森 組

ベスト32 濱口・西岡組、島津・山本組

～各大会・思い出のヒトコマ～





◎高校選手権 (8月)



A collage of six photographs showing a basketball team in red and white uniforms. The photos depict the team in various settings: lined up on a court, standing in a circle, posing for a group photo, and interacting with a coach. The background shows an outdoor basketball court with a green fence and trees.

◎ あれこれ



【概要】

新2年生の女子が2名と女子部存続の危機まで心配された29年度。元気な女子11人が入部し、男女とも20名を超える人数で団体戦男子シード権奪取、女子ベスト4の目標を掲げスタートしました。

男子は高校総体で、第3シードからダブルスを奪い、シングルス2でも中盤まで競り合う展開に力が入る大会となりました。結局、終盤力の差を見せつけられ敗退。その大会での引退を決めていた3年生5人が、夏の大会まで残ることを決断し、8月末まで1、2年生とともに練習に打ち込みました。

その高校選手権では、シード権奪取の目標を大きく越える3位入賞。チーム全員の力で勝ち取ることが出来ました。シングルス、ダブルスともにそれぞれの選手が持てる力を存分に発揮し、強豪校を次々と倒し、勝ち上がって行きました。その一つ一つのプレーが「この1球を諦めない」と魂のこもった姿でした。今まで、「何としても賞状を手にした」と、頑張ってきた選手はもちろん、保護者の方々の毎日、OBのこれまでの努力が報われた瞬間でした。試合後の達成感いっぱいの誇らしい3年生の表情を忘れることが出来ません。

先輩の背中を追いかけてきた1、2年生の新人戦。中学校時代は野球部、サッカー部と硬式テニスどころかテニスの経験もない選手が多いこのチーム。先輩たちに続けと練習してきましたが、団体戦の経験もなく初戦敗退も覚悟していた大会でした。しかしながら、高い集中力とチーム力で一つ一つ勝ち上り4位入賞を果たしました。一人一人の力は未熟だと知り、とにかく練習熱心で努力を重ねてきた選手たちが、ベスト4を果たした瞬間は、支え合いながら戦う団体戦の素晴らしさを改めて感じさせられました。近年の三重県のテニスの高いレベルの中、このチームがベスト4に入ったことは奇跡としか言いようがないことです。まだまだこのチームは始まったばかりです。奇跡を実力に変えていく秋、冬を充実させていきたいと思います。

女子も高校総体では、ノーシードながら強豪の名張高校との3回戦はまさに死闘となりました。ダブルス、シングルス①、②ともに2時間に迫る6-8、8-6、8-6の試合で勝利し、シード権を守ることが出来ました。3年生の気合のこもった一球一球を、硬式テニスの公式戦で初めて見た1年生は、キラキラした目で、「自分たちも先輩のようにになりたい」と決意した瞬間でした。3年生は7位入賞を果たし、達成感とともに7名が引退し、次の挑戦である進路実現に向けスタートを切りました。

2年生が2名しかいない中、苦しい試合が予想された夏の大会も2名の3年生が、進路の不安もある中、1、2年生とともに戦ってくれました。土屋、喜田の2人は技術面はもちろん、精神的な面で後輩たちを大きく引き上げてくれた夏にしてくれました。感謝とは・・・、責任とは・・・、気配りとは・・・を後輩たちに言葉ではなく、背中に残して行ってくれました。本当に、顧問として感謝しかありません。貴重な時間を後輩たちに費やしたことで、二人も一回り大きく成長した夏でもありました。彼女たちの頑張りで、高校選手権も何とかシード権を守ることが出来ました。

9名中1年生7名がメンバーとなる新人戦の団体戦。緊張はしていたものの、先輩たちの姿でイメージしていた戦い方をしっかりと受け継いで7位入賞を果たしました。まだまだ、これから上達するしかないチーム。この秋、冬と練習を重ね、30年度に飛躍したいと思います。